

# 親子の関係をスポーツを通してよくするには（小学生を対象）に関する研究

川原 弘之（生涯スポーツ学科 地域スポーツコース）  
指導教員 海老島 均

キーワード：子ども コミュニケーション スポーツ

## 1. 緒言

現在、コミュニケーションが取れないという子供たちが増えている。こういった子供たちの背景を考えてみると、両親との家族間でのコミュニケーションに問題があるのではないだろうかと考える。近代の経済の停滞により、両親ともに働きにでるため、「話せる時間がない」「学童に預けている」など、たくさんの子どもと親の孤立化が進んでいると思われる。そのため、一人遊びが増え、友達ができにくく、コミュニケーションがとりにくくなっているなどの問題が生じているのではないかと考えた。特に身体運動を通してのコミュニケーションが少なくなっていると感じている。

その中で、子供は両親に対して、今何を望んでいるのか、何が不満なのか。親は子供に何を期待しているかを検証していく。

## 2. 研究方法

本研究の調査対象は、文献調査、アンケート調査、インタビュー調査を行った。

アンケート調査、滋賀県野洲市にある小学校3校にて、小学校4年生から6年生の合計676人を対象に調査を行った。

インタビュー調査では、滋賀県野洲駅前にて、20人に、子どもの習い事について聞き取り調査を行った。アンケート調査、インタビュー調査は、2010年10月22日23日に実施した。

## 3. 結果と考察

小学生は、現在携帯電話の所持率が26.2%と年々増加しており、これらは止む事がないといえる。そして、共働きの親の労働時間の増加により、家にいる時間も少なくなっている事が分かった。それによる、子どもの一人

遊びが増加し、8割の子ども達がゲームを毎日行っている。

子どものスポーツの現状の調査では、54%の子ども達がクラブ等に所属しており、残りの46%の子ども達は、塾や習い事によるため出来ない子どもが多く見られた。

習い事に関してのインタビュー調査では、習い事の必要性は感じていなくても子どもの自主性を尊重し、「本人がやりたいというので通わせている」という意見が多く見られた。

クラブを行なっている子ども達の親は、子どもをしっかりと褒めるという項目では、86%、試合を見に来てくれる項目は、93%、両親とよく外で遊ぶ項目は、87%という値になった。そして、子どもと親の話す時間の調査では、86%が話すと答えており、これは年々増加傾向にある。すなわち、上記の生活の妨げになるものがあるなかで、子どもと親が話している時間は長くなってきているのがわかる。

## 4. まとめ

子どもと親との話す時間が予想に反して増加していた。スポーツを行う子ども達も減っているわけではないという事もわかった。本研究を通して子どものコミュニケーション不足は他に原因があるのではないかと推測される。

この問題を解決するには、他の複合的要因を追求していく必要があると思われる。

## 5. 主要参考文献

中山和義(2008) スポーツから気付く大切な事, 実業之日本社.